News Release

たばこと塩の博物館

２０１５年１２月

「隅田川をめぐる文化と産業　浮世絵と写真でみる江戸・東京」
2016 年 1 月 5 日（火）～3 月 21 日（月・祝）
たばこと塩の博物館（東京・墨田区）で開催

江戸時代から人々に愛されてきた隅田川の役割や魅力を浮世絵と写真で紹介

たばこと塩の博物館（東京・墨田区）では、2016年1月5日（火）から 3月21日（月・祝）まで、「隅田川をめぐる文化と産業　浮世絵と写真でみる江戸・東京」を開催します。

徳川家康の江戸入府以来、隅田川流域は開発が進められ、さまざまな物資を運ぶための水路として利用され、江戸の生活を支える川でした。そして同時に、舟遊びや花火など娯楽の場であり、江戸の名所でもありました。一方、水運の要所だった隅田川には、各地からの物資を江戸城下に運ぶ船が行き交っていました。それらの物資のなかには塩もありました。徳川幕府は行徳（現在の市川市周辺）にあった塩浜を保護し、塩を運ぶ水路として、江戸川と中川を結ぶ新川、中川と隅田川を結ぶ小名木川といった運河を整備していたのです。さらに、明治時代以降には、その水運と水がますます活用されるようになり、当館のある本所・向島周辺は、マッチやせっけんなど近代軽工業の発祥の地となり、大蔵省専売局のたばこ工場なども建設されました。

本展覧会では、江戸時代を通じて描かれた浮世絵と、明治以降に記録された写真や絵はがきを中心に展示し、隅田川をめぐる文化と産業について紹介します。隅田川の景色、花見や花火を楽しむ人々、歌舞伎を題材にしたものなど 32 点の浮世絵（※前後期合わせての点数）で、隅田川が人々に愛されていたようす、くらしに根付いていたようすをご紹介します。また、行徳塩田とその水運については、関連する絵や地図、写真、製塩道具などでご紹介します。そして、近代軽工業の発祥の地としての隅田川界隈を写真や絵はがきなど 100 点を越える資料で紹介しながら、江戸から東京へと移り変わるようすにも着目します。

会期中には、展示関連講演会をはじめとするイベントも多数開催します。江戸の人々に深く愛され、今日まで親しまれてきた隅田川の魅力について、「たばこ」と「塩」との関わりにもふれるという、当館ならではの視点でご紹介する本展にご期待ください。

※浮世絵は前期（～2/14）・後期（2/16～）で展示替えを行います。

〈展示作品のご紹介〉→　別紙１　〈展示関連講演会とイベント〉→　別紙２　をご参照ください

【展覧会開催概要】

名　　称	隅田川をめぐる文化と産業　浮世絵と写真でみる江戸・東京 （スミダガワヲメグルブンカトサンギョウ　ウキヨエトシャシンデミルエド・トウキョウ）
会　　期	2016 年 1 月 5 日（火）～3 月 21 日（月・祝）
会　　場	たばこと塩の博物館　2 階特別展示室
住　　所	東京都墨田区横川 1-16-3（とうきょうスカイツリー駅から徒歩 8 分）
主　　催	たばこと塩の博物館
後　　援	隅田川ルネサンス推進協議会、墨田区
入 館 料	大人・大学生　100円（50円）　65才以上の方と小・中・高校生 50円（20円） ※（　）内は20名以上の団体料金　※65才以上の方は要証明書
開館時間	午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）
休 館 日	月曜日（ただし、1/11 と 3/21 は開館）、1/12（火）

展示作品のご紹介　*展示作品の一部をご紹介します*

※浮世絵は前期（～2/14）・後期（2/16～）で展示替えを行います。

1.

「両国納涼図」　歌川国丸画　文化（1804-1818）頃

◆両国橋には多くの人々が詰めかけ、隅田川にも大小の納涼船が出ている。夜空には大きな花火が打ち上がっている。（前期展示）

2.

「江戸八景　隅田川の落雁」
溪斎英泉画　　天保（1830-1844）頃

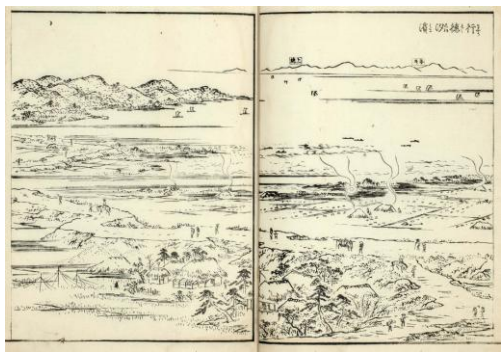
◆画面右下に三囲（みめぐり）稲荷の鳥居、遠くには筑波山が見えることから、この作品では、隅田川は下流から上流に向かって描かれていることがわかる。人や荷を運ぶ川船が行き交う様子が描かれ、隅田川は人々の暮らしを支える川であったことがうかがえる。（前後期通して展示）

3.

「江戸高名会亭尽　本所小梅　小倉庵」
歌川広重画　天保（1830-1844）頃

◆「江戸高名会亭尽」は、江戸の料亭を描き、料亭にちなむ狂句を合わせたシリーズ。小倉庵の店の前には隅田川と横川をつなぐ源森川（源兵衛堀）が流れる。二階建ての母屋の他、離れも備えた料亭であったことがよくわかる。狂句は「下戸上戸百人も寄る小倉庵」とある。（後期展示）

4.



「江戸名所図会　行徳汐濱」
長谷川雪旦画　天保７年（1836）

◆右奥に塩浜や塩を作る釜屋と煙が見える。塩は軍事物資としても重要なため、徳川幕府は行徳一帯の塩業を保護し、江戸城まで塩を運ぶ小名木川や新川といった水路も整備した。行徳と日本橋小網町を結ぶ航路には、塩以外のさまざまな物資や、成田山詣での人々を運ぶ船が行き交っていた。

5.

千葉縣行徳古今製鹽之真圖（部分）
19 世紀末

◆江戸幕府にも保護された行徳の塩浜は、干満差で海水を導入する入浜（いりはま）だった。塩まじりの砂を集めてザルに入れ、それを海水で溶出させて鹹水（かんすい／濃縮海水）を得る「笊取り法」という製法で、江戸～昭和にかけて主流だった瀬戸内海沿岸の入浜式塩田とは異なる製塩風景だった。

6.

「東京大日本麦酒株式会社吾妻橋工場」
［絵はがき］

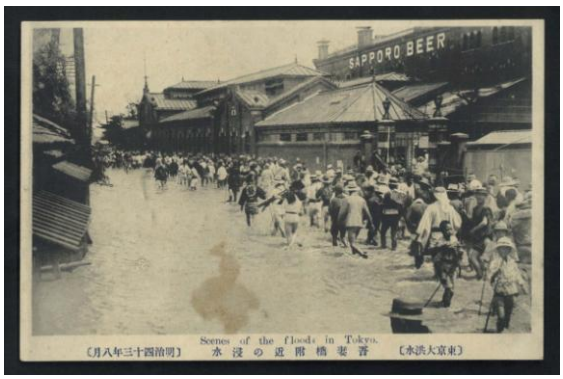
◆墨田区・吾妻橋は、明治 36 年（1903）に札幌麦酒東京工場が操業を開始して以来ビールの製造が始まり、早くからビアガーデンも開業したという歴史を有する地だった。

7.

東京名所隅田川の遊泳の様子［絵はがき］

◆明治から大正にかけて、隅田川での水練は夏の風物詩だった。

8.



明治 43 年の大水害の様子【本所吾妻橋付近】
［絵はがき］

◆関東各地で集中豪雨があった結果、利根川、荒川、多摩川水系の広範囲にわたって河川が氾濫し各地で堤防が決壊した。本所・向島地域の被害も甚大で、その様子は絵はがきにもなった。

9.

錦糸町駅北口側
（四ツ目通りと蔵前橋通りの交差点）
にあった精工舎
［絵はがき］

◆関東大震災後に建設された精工舎の工場。白くそびえ立つ時計塔は永らく地域のシンボルにもなっていた。

（別紙２）

【展示関連講演会】　当日整理券制

1 月 24 日（日）
「江戸・明治の製塩と流通」
　講師：落合功（青山学院大学教授）
1 月 30 日（土）
「隅田川のあそび」
　講師：竹内誠（東京都江戸東京博物館館長）
1 月 31 日（日）
「明治の工業都市東京における隅田川」
　講師：鈴木淳（東京大学教授）
2 月 21 日（日）
「本所・深川の開発と大江戸」
　講師：斉藤照徳（江東区文化財専門員）
3 月 6 日（日）
「絵はがきにみる隅田川界隈」
　講師：生田誠（絵葉書研究家）
3 月 13 日（日）
「行徳塩と新河岸」
　講師：菅野洋介（市立市川歴史博物館学芸員）
3 月 20 日（日）
「関東大震災と本所地域」
　講師：西村健（横浜都市発展記念館調査研究員）

※ いずれも午後 2 時から、3 階視聴覚ホールで開催します。
　参加費無料（ただし、入館料は必要です）。
　定員は、先着 120 名（いずれも当日開館時より、整理券を 1 名につき 2 枚まで配布します）。

【ワークショップイベント】　事前申し込み制

2 月 7 日（日）
「講座　意外と知らない塩のおはなし」（定員40名）
　共催：公益財団法人塩事業センター
　※簡単な実験を交え、塩に関する基本的な知識をクイズ形式でお伝えします。

2 月 27 日（土）
「塩を使ったせっけん作り」（体験 定員20名）
　展示にも登場する「せっけん」。簡単な実験で、原料の液体を固めて固形せっけんにする「塩析」が体験できます。

※ いずれも午後2時から、1階ワークショップルームで開催します。
※ 参加費無料（ただし、入館料は必要です）。
※ 定員は2月7日は40名、2月27日は20名（いずれも事前申込制）。
※ 申込方法などの詳細は、たばこと塩の博物館までお問い合わせください。